

## 運搬時の注意

まず、絶対に船外機上部が下になる姿勢にしないこと。エンジンオイルが燃料系統に回ってしまうなどのトラブルにつながる。燃料タンクのガソリンを抜く場合も、逆さにして排出するのはNGだ(その必要があるときはポンプで抜く)。横置きする場合には、定められた向き(船外機側面のケースプロテクターが地面側)で置く。スタンドに立てた状態で運搬、保管するのがベスト。



## スロットル

グリップの操作具合のほか、ケーブルの被膜の割れやワイヤの傷みなどもチェック。併せてキャブレター側のケーブルリンク部も確認し、必要に応じてグリスアップする。なお、2馬力という限られた出力ゆえ、どうしても「フルスロットル走行」をしてしまいがちだが、エンジンのことを考えると、全開での使用は短時間に留め、8割程度のスロットル開度で走行するのが望ましい。



## クランプハンドル

トランサムボードに船外機を取り付け、固定するためのクランプハンドル。走行中に振動で緩むことがないように、しっかり締め付けよう。また、このネジ部分に耐水グリスを塗っておくと使い勝手がよくなるし、海で使用する場合には防錆にも役立つ。取扱説明書には、クランプハンドルを含めて全部で7カ所のグリスアップポイントが記されているので、折にふれて給脂を行いたい。



[文]編集部  
[写真]山岸重彦(本誌)

日ごろの心がけ次第でずっと使える

# BF2と長く付き合うための

# メンテナンス

販売店のみなさんの座談会のなかでも述べられたように、BF2は耐久性に優れた船外機であるが、正しい使い方と整備を行うことによって、その寿命はさらに延びる。ここではユーザーでもできるBF2のメンテナンス方法についてまとめてみた。もちろん、プロがチェックすることでトラブルの予兆が見つかることもあるので、定期的に販売店で点検・整備を受けることもお忘れなく。

## エンジン始動、三つのコツ

### 1 スターターロープは「重くなったところから引く」

リコイルスターターロープを軽く引くと重くなる場所があるので、そこでいったん止めてから、勢いよく、そしてなるべく長い距離を一気に引く。

### 2 スロットルは「半開(始動マーク)の位置で」

スロットル全開では始動しにくい。ただし、遠心クラッチ式のBF2では、スロットルを開け過ぎて始動すると始動直後に走り始めるので注意が必要。

### 3 必要に応じて「チョークを作動させる」

一般に寒冷時に使用するものと思われがちなチョークだが、暖かい季節でも作動させたほうがかかりやすい(まだエンジンが温かい状態での再始動を除く)。

## トリセツを読もう!

読まない人が多いのが現実ではあるが、やはり取扱説明書には大切な情報が詰まっている。BF2を“愛機”と呼べるほど親しくなるためには、必読である。



## 燃料抜き

持ち運びするときはキャブレター内の燃料を抜く。手順は、燃料コックレバーを「停止」にし、キャブレター下部のドレンスクリューを緩め、滴り落ちてくる燃料をウエスや容器で受ける。あるいは、レバーを停止にし、キャブレター内の燃料がなくなるまでエンジンを運転する方法もある。なお、しばらく船外機を使用しないときも、キャブレター内のガソリンが劣化するので抜いておこう。



## 使用後の手入れ

空冷のBF2は、冷却系統の水洗いがいらぬことが特徴の一つではあるが、やはり海で使ったあとは手入れをするべきだ。まず、ブラケットより下の部分全体に水をかける。通常、上部は水拭きでよいが、場合によってはエンジンカバーを外しての水洗いも。ただし、勢いよく、あるいは横や下から水をかけるのは吸気系統などに水が入るので注意。"上からチョロチョロ"が鉄則だ。



## リコイルスターター

スターターロープの傷みをチェック。ロープが切れるとリコイルスターターに巻き込まれてしまい、エンジンを始動できなくなる。そういうトラブルに備えて交換用のロープが船外機に同梱されているが、これを使うにはエンジンカバーを外し、工具を使ってリコイルスターターを取り外す必要があるので厄介だ。保守のために、定期的にロープ全体にグリスを塗っておくのもお勧めである。



## 非常停止スイッチ



エンジンをかけたら、非常停止スイッチのクリップを外してエンジンが停止することを確認する。クリップにつながったカールコードを操船者の体に留めておき、万一、走行中に落水した場合にエンジンを停止させる大切な機能である。なお「エンジンがかからない!」と困惑していたら、単にクリップを付け忘れていただけ……という例も少なからずあるので、ご注意を。

## エンジンオイル

点検窓で量を確認するが、船外機が垂直でないときと正しく測れないので注意。また、オイルの入れ過ぎは始動不良などの原因になる。点検窓の「中央が上限」だ。エンジンオイル容量は250mlだが、交換時に古いオイルが抜けるには時間がかかるので、新しく入れるオイルの量は200mlを目安にするとよい。なお、エンジンを使用していなくてもオイルは劣化するので、定期的な交換が必要だ。



## シャープピン、割りピンの予備



右記のシャープピンが折れるとプロペラは回転しないので、ボートの推進力はゼロになってしまう。そこで水上での交換を余儀なくされたときのために予備のシャープピンが必要で、BF2では、プロペラ取り付け用の割りピンとともに写真の場所に1セット装備されている。やむを得ず水上で交換する場合には、ピンを落とさないように細心の注意を払わなければならない。

## オイルシール、シャープピン



プロペラを外して取り付け部を点検。ここに釣り糸などを巻き込んでおくと、プロペラシャフトのオイルシールを傷め、ギアオイルのなかに水が混入する原因となる。そして、プロペラシャフトを貫通している短い棒がシャープピン。これがプロペラ側の溝にはまって動力を伝えるのだが、プロペラが障害物に当たったときにはシャープピンが折れて、エンジン本体の損傷を防ぐ仕組みだ。

## ギアオイル、プロペラ

このローケースのなかには、エンジンから下りてくる垂直方向のドライブシャフトの回転を、水平方向のプロペラシャフトに伝えるギアが入っており、内部はギアオイルで満たされている。定期的に必要なギアオイルの交換は販売店に依頼してほしいが、ふだんの使用時にはオイル漏れがないか確認する。



また、プロペラに変形や欠けが生じていないか、併せてチェックしよう。

※このページのメンテナンスには、BF2付属の工具ではできない作業もあるので、目的に応じて適切な工具を使用すること